

科目名	経済学演習1			ナンバリング	RPP451	授業形態	演習
対象学年	3	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	1 単位
代表教員	吉村忠晴	担当教員					

授業の概要	本授業では、問題演習を行うことでマクロ経済学に関する理論についての理解がより深まることを目的とする。授業では、2年次対象の「経済と市民生活」および「経済原論」の講義内容を踏まえ、マクロ経済学分野の基礎理論に関する問題演習を課すとともに、問題の解法についての解説と問題に関係する理論や専門用語に関する補足説明を行う。演習で課す問題は、公務員採用試験(大学卒業程度)の教養試験「社会科学(経済)」の「経済原論」(マクロ経済学)の範囲を中心に、一部、専門試験の「経済原論」(マクロ経済学)の範囲を想定している。						
到達目標	1. 「国民所得の概念」と「国民経済計算」に関する演習問題を解くことができる。 2. 「経済指標」に関する演習問題を解くことができる。 3. 「財市場の均衡」に関する演習問題を解くことができる。 4. 「貨幣市場の均衡」に関する演習問題を解くことができる。 5. 「IS－LM分析」に関する演習問題を解くことができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	1. 2年次において、「経済と市民生活」および「経済原論」を履修していることが望ましい。 2. 「経済学演習2」を履修することが望ましい。 3. 公務員採用試験の受験を考えている学生は、履修することが望ましい。 4. 新聞等で常に最新の経済動向と経済統計を把握しておくこと。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
		5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
①新古典派とケインズ派の違いを踏まえ、経済思想と経済学史の演習問題を解くことができる。 ②国民所得の概念とそれに関連する用語を正しく理解し、国民経済計算に関する基本レベルの演習問題を解くことができる。 ③景気循環、物価指数に関する演習問題を解くことができる。 ④均衡国民所得、乗数理論に関する演習問題を解くことができる。 ⑤信用創造と貨幣乗数に関する演習問題を解くことができる。 ⑥財市場と貨幣市場の同時均衡に関する演習問題を解くことができる。	①国民経済計算に関する発展レベルの演習問題を解くことができる。 ②インフレ・ギャップとデフレ・ギャップ、政府の財政活動に関する演習問題を解くことができる。 ③ケインズの流動性選好理論に関する演習問題を解くことができる。 ④IS曲線とLM曲線の導出プロセスに関する演習問題を解くことができる。 ⑤クラウディング・アウト、流動性のわなに関する演習問題を解くことができる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)							
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート							
授業態度・授業への参加							
確認プリント	○						10%
練習プリント	○	○			○		40%
総合演習	○	○			○		50%
出席			○	○			欠席は、減点になることもある。

課題、評価のフィードバック	1. 「確認プリント」、「練習プリント」については、添削もしくは個別指導を行うか、授業において解答および解法の解説を行う。 2. 「総合演習」については、事前に評価基準を示したうえで、添削もしくは個別指導の行い、学生からの要請があれば、いつでも開示できるように準備しておく。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	イントロダクション	マクロ経済学の概要、新古典派経済学とケインズ経済学、有効需要の原理	
	第2回	国民所得の概念と国民経済計算 1	フローの概念、三面等価の原則	
	第3回	国民所得の概念と国民経済計算 2	国民所得の概念	
	第4回	国民所得の概念と国民経済計算 3	国民経済計算	
	第5回	経済指標	景気循環、物価指数	
	第6回	財市場の均衡 1	総需要と総供給、ケインズ型消費関数	
	第7回	財市場の均衡 2	均衡国民所得の決定、乗数理論	
	第8回	財市場の均衡 3	インフレ・ギャップとデフレ・ギャップ	
	第9回	財市場の均衡 4	政府の財政活動(政府支出と租税)	
	第10回	財市場の均衡 5	投資決定と利子率、IS曲線(財市場の均衡)	
	第11回	貨幣市場の均衡 1	貨幣の需要とケインズの流動性選好理論	
	第12回	貨幣市場の均衡 2	貨幣の供給、信用創造、貨幣乗数、LM曲線(貨幣市場の均衡)	
	第13回	IS－LM分析 1	財市場と貨幣市場の同時均衡	
	第14回	IS－LM分析 2	クラウディング・アウト、流動性のわな	
	第15回	総合演習	單元ごとの練習問題の実施によって明らかになった各自の課題と反省を踏まえ、全範囲にわたる演習問題を実施する。	
	試験	定期試験は実施しない。		
授業の進め方		該当する範囲の「経済と市民生活」と「経済原論」の授業内容の確認と補足をスライドと講義プリントにより行ったうえで、確認問題、練習問題の実施および解法のポイントと解答手順の解説を行う。		
授業外学習の指示		授業中に行った確認問題、練習問題の結果から自分の理解度を確認し、理解不足の授業内容について復習をする。「総合演習」に向けての準備を行う。次回の授業の範囲に該当する「経済と市民生活」と「経済原論」の授業内容を振り返るとともに、その際に課された練習問題を見直しておく。 (授業外学習時間： 毎週 90 分)		

教科書	教科書は使用せず、毎回講義プリントを配布する。なお、配布された講義プリントは、クリアファイル等で整理・保存し、毎回の授業に持参すること。また、「経済と市民生活」と「経済原論」で使用した講義プリントも持参すること。
参考書	特になし。
参考URLなど	特になし。
その他	

経済学演習1 ルーブリック

評価規準 項目／観点		レベル高 ← 評価基準 → レベル低		
		例：模範的、レベル3	例：標準、合格、レベル2	例：要改善、不合格、レベル1
1	知識・理解	マクロ経済学の理論の導出プロセスを理解している。	マクロ経済学の専門用語や理論を正しく理解している。	マクロ経済学の専門用語を正しく理解していない。
2	思考・判断 (専門的能力)	マクロ経済学の理論についての知識を援用して、発展レベルの演習問題を解くことができる。	マクロ経済学の理論についての知識を援用して、基本レベルの演習問題を解くことができる。	マクロ経済学の理論についての知識を援用できず、基本レベルの演習問題を解くことができない。
3	技能・表現 (汎用的技能)	マクロ経済学の理論を踏まえた経済政策を理解している。	マクロ経済学の理論を現実の経済問題に関連づけて理解している。	マクロ経済学の理論を現実の経済問題と関連づけて理解していない。
4				
5				
6				
7				